



証券コード：7932

株式会社ニッピ

2024年3月期

決算説明資料

2024年5月15日



INDEX

1 2024年3月期 決算概要

2 2025年3月期業績予想

3 中期経営計画の進捗

4 APPENDIX

1

2024年3月期 決算概要

2024年3月期 決算概要（連結）

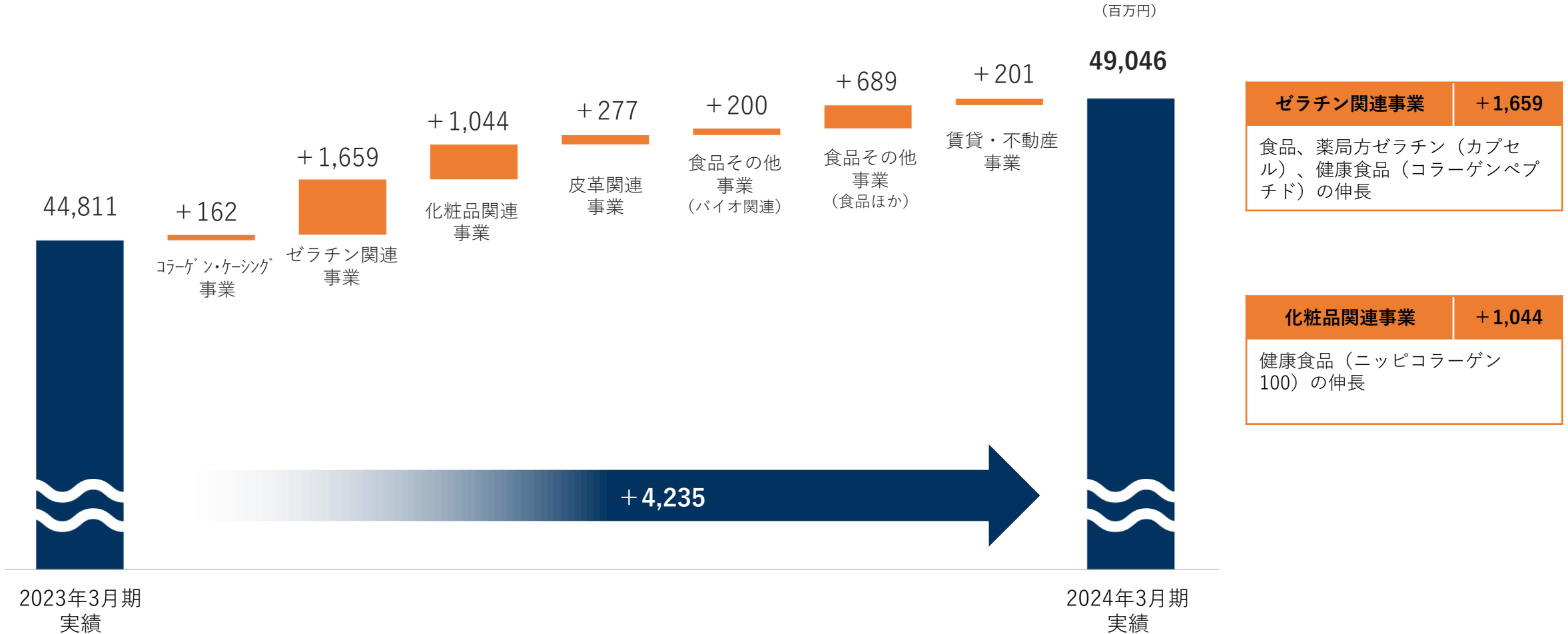
大幅に増収増益、各利益段階で過去最高益を達成

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正予想 <small>(11月8日公表)</small>	2024年3月期 実績	前年同期比 <small>(24.3期実績/23.3期実績)</small>
売上高	44,811	49,000	49,046	+ 9.5%
営業利益	1,471	3,000	3,612	+ 145.5%
営業利益率	3.3%	6.1%	7.4%	+ 4.1P
EBITDA [※]	3,017	—	5,404	+79.0%
経常利益	1,553	3,000	3,740	+140.8%
親会社に帰属する 当期純利益	1,169	2,000	2,548	+117.8%
一株当たり当期純利益（円）	406.79	695.42	886.04	+117.8%
ROE	3.4%	—	7.1%	+3.6P
ROIC	2.6%	—	6.1%	+3.6P

※EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

連結売上高 増減要因分析

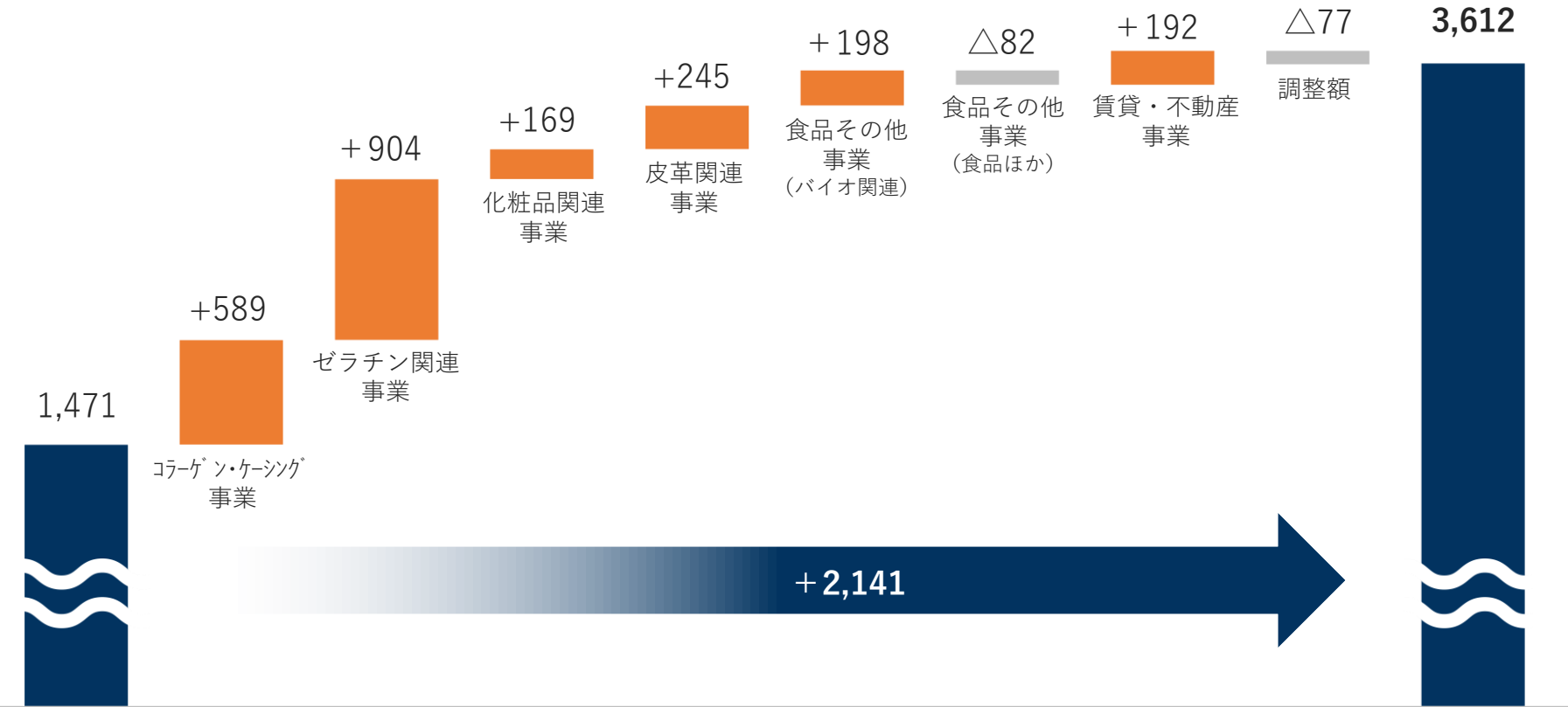
健康志向の高まりを背景に、健康食品分野が伸長



連結営業利益 増減要因分析

インバウンド需要を追い風に、コスト低減、価格改定も加わり過去最高益を達成

(百万円)



コラーゲン・ケーシング事業	+589
<ul style="list-style-type: none"> 製造効率の向上 海上運賃等の下落による輸出コストの低減 	

ゼラチン関連事業	+904
<ul style="list-style-type: none"> インバウンド需要の回復に伴い、健康食品（コラーゲンペプチド）の伸長 一部、販売価格の改定を進める 	

2023年3月期
実績

2024年3月期
実績

セグメント別業績（連結）

ほぼ全ての事業で増収増益を達成

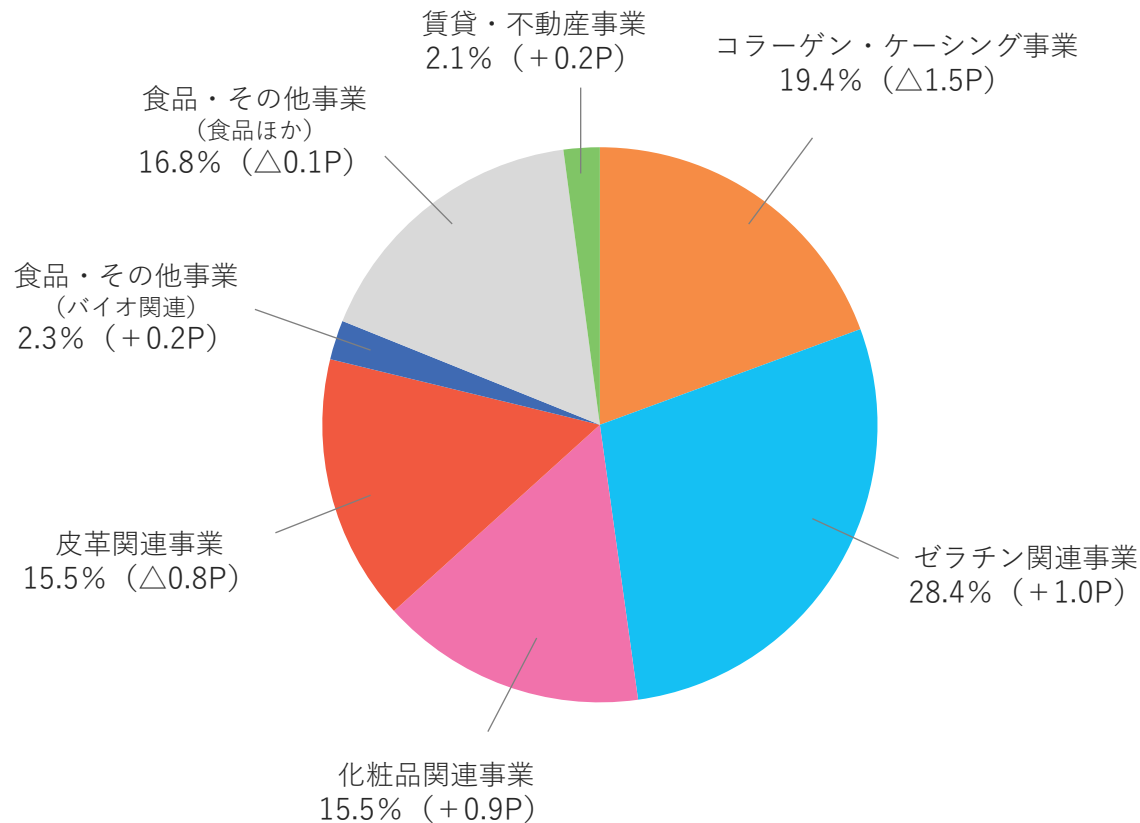
単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期同期比		2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期同期比	
			金額	比率			金額	比率
コラーゲン・ ケーシング事業	9,334	9,497	+162	+1.7%	379	969	+589	+155.5%
ゼラチン関連事業	12,263	13,923	+1,659	+13.5%	693	1,597	+904	+130.5%
化粧品関連事業	6,544	7,588	+1,044	+16.0%	872	1,042	+169	+19.5%
皮革関連事業	7,315	7,593	+277	+3.8%	113	359	+245	+215.6%
食品その他事業 (バイオ関連)	912	1,112	+200	+22.0%	54	252	+198	+366.0%
食品その他事業 (食品ほか)	7,579	8,269	+689	+9.1%	270	187	△82	△30.7%
賃貸・不動産事業	860	1,061	+201	+23.4%	655	848	+192	+29.4%
調整額	—	—	—	—	△1,567	△1,644	△77	△5.0%
合計	44,811	49,046	+4,235	+9.5%	1,471	3,612	+2,141	+145.5%

セグメント別業績 構成比 (連結)

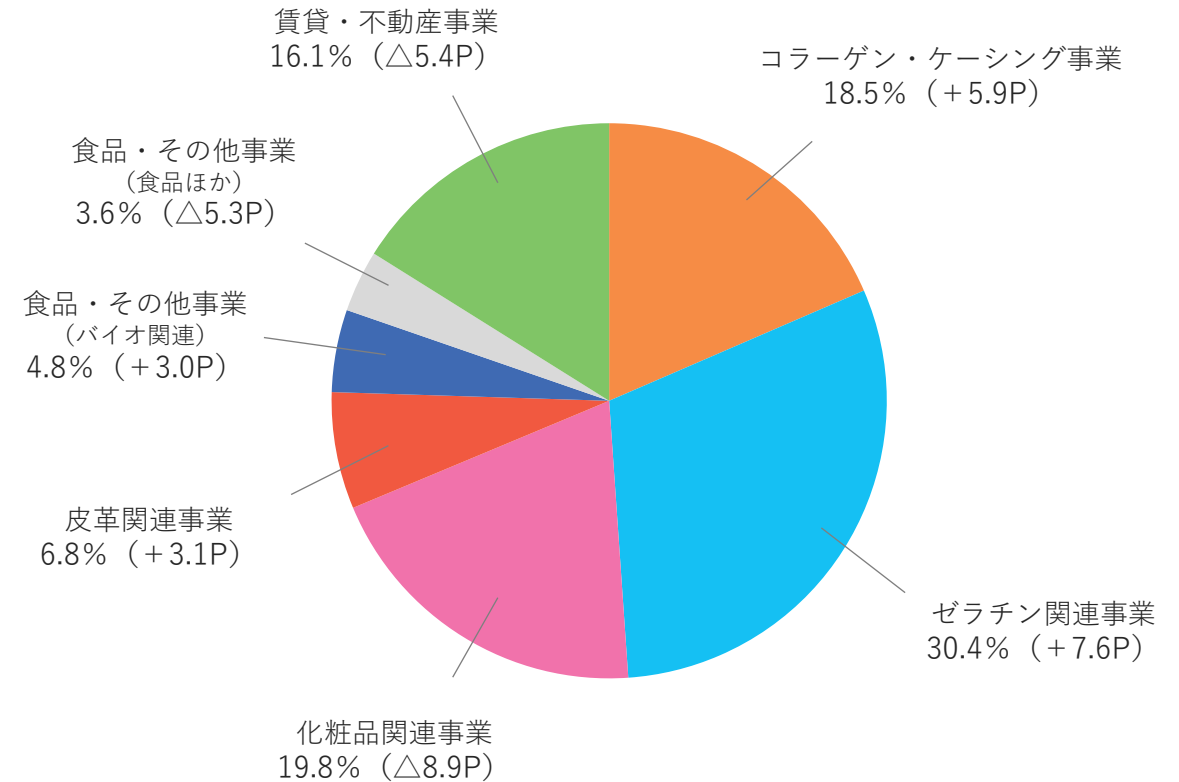
コラーゲン・ケーシング事業および皮革関連事業の利益が回復、バイオ関連事業が大きく成長

売上高構成比



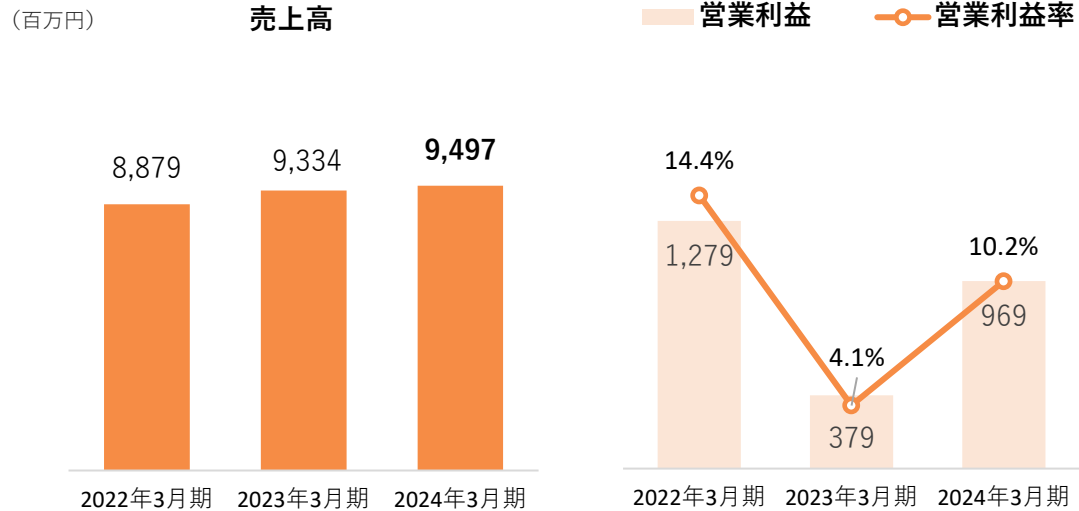
営業利益構成比

(全社費用控除前)



セグメント別業績（連結）

コラーゲン・ケーシング事業



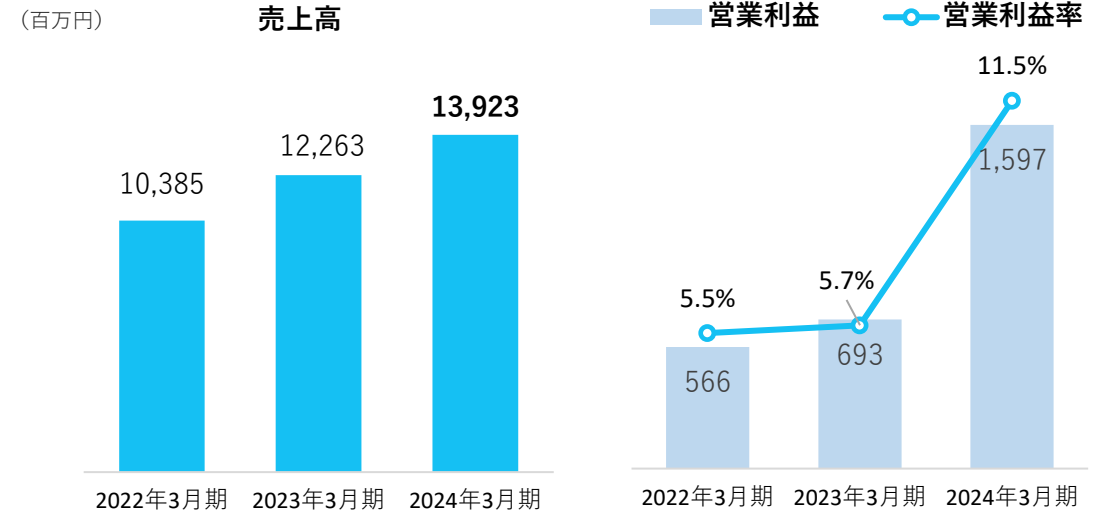
売上高

- 海外販売の主力である北米向けがマイナスも、国内向け、欧州向けおよび東南アジア向けが増加し増収

営業利益

- 製造効率の向上による製造原価低減
- 海上運賃の下落による輸出コスト低減
- 円安の進行による輸出単価上昇

ゼラチン関連事業



売上高

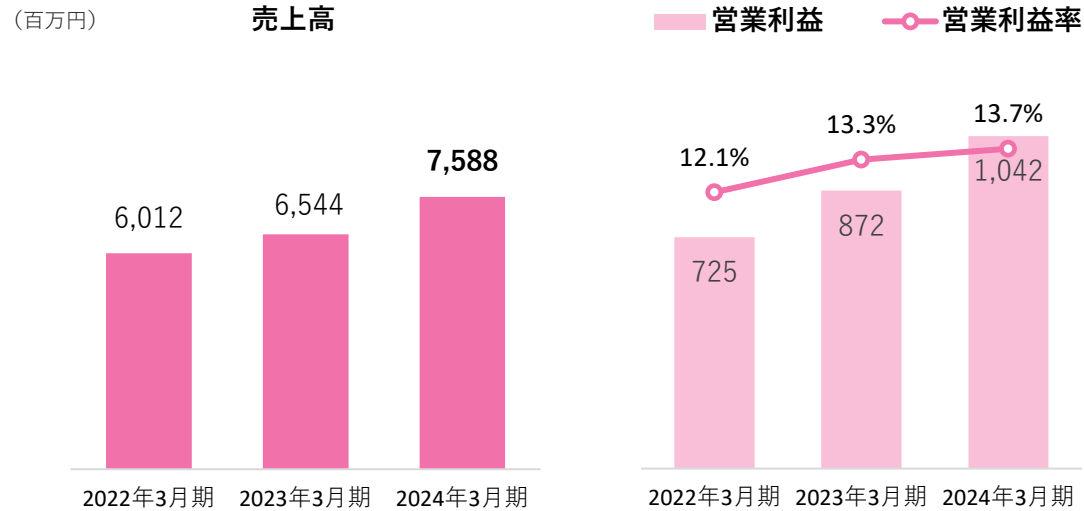
- 薬局方ゼラチン（カプセル）、食品向け、健康食品（コラーゲンペプチド）の販売増

営業利益

- 円安の進行により輸入コストが上昇したものの、段階的に取り組んできた販売価格の改定が進み、コロナ禍で低下していた営業利益率が回復

セグメント別業績（連結）

化粧品関連事業



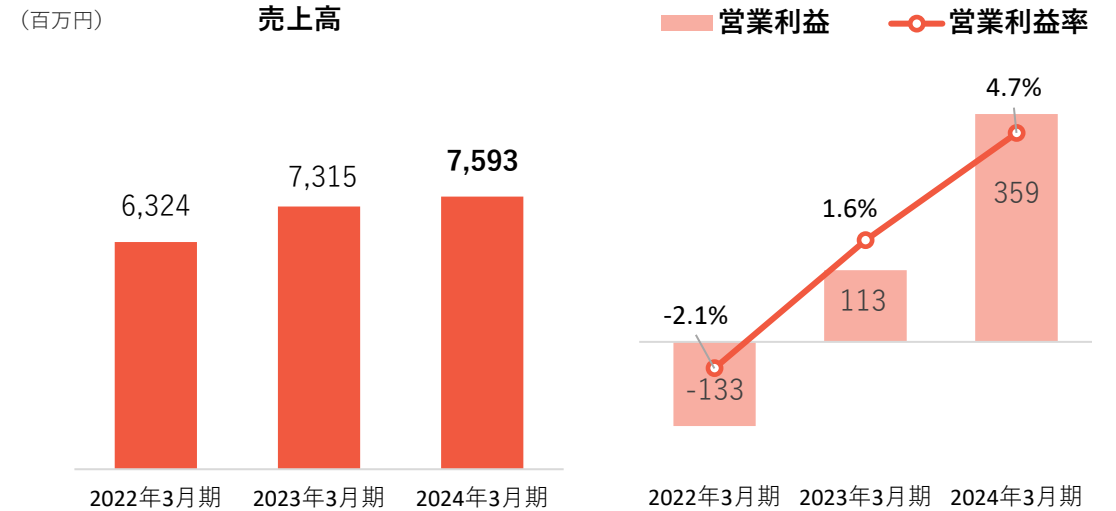
売上高

- 健康志向を背景に、健康食品（「ニッピコラーゲン100」）の販売が伸長

営業利益

- 売上の増加および営業費の効率的投入等により、営業利益も増加

皮革関連事業



売上高

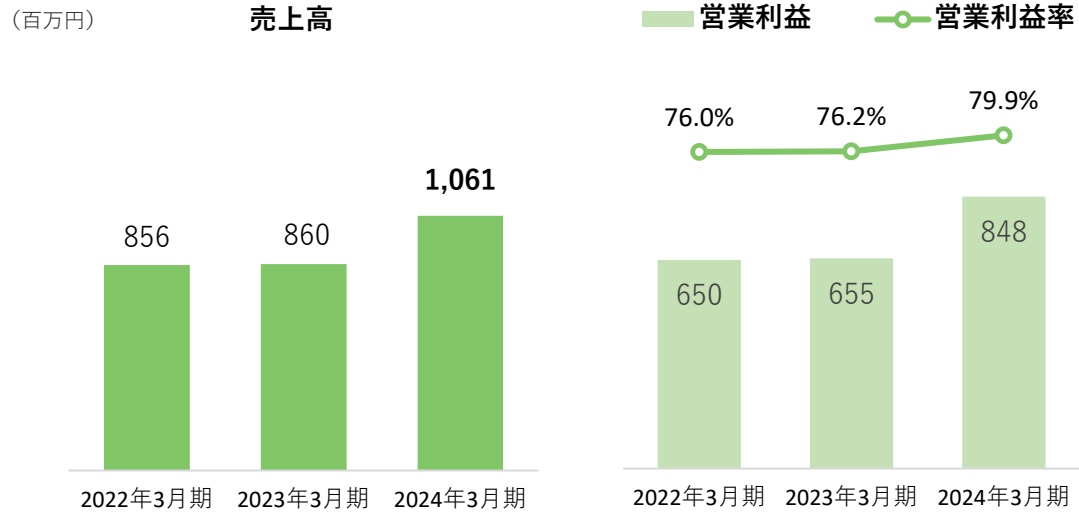
- 行動制限の緩和に伴い、靴・袋物向けの販売が好調に推移

営業利益

- 原材料費の上昇分について一部価格改定を進める
- 売上の回復に伴い、営業利益率はコロナ禍以前の水準を回復

セグメント別業績（連結）

賃貸・不動産事業



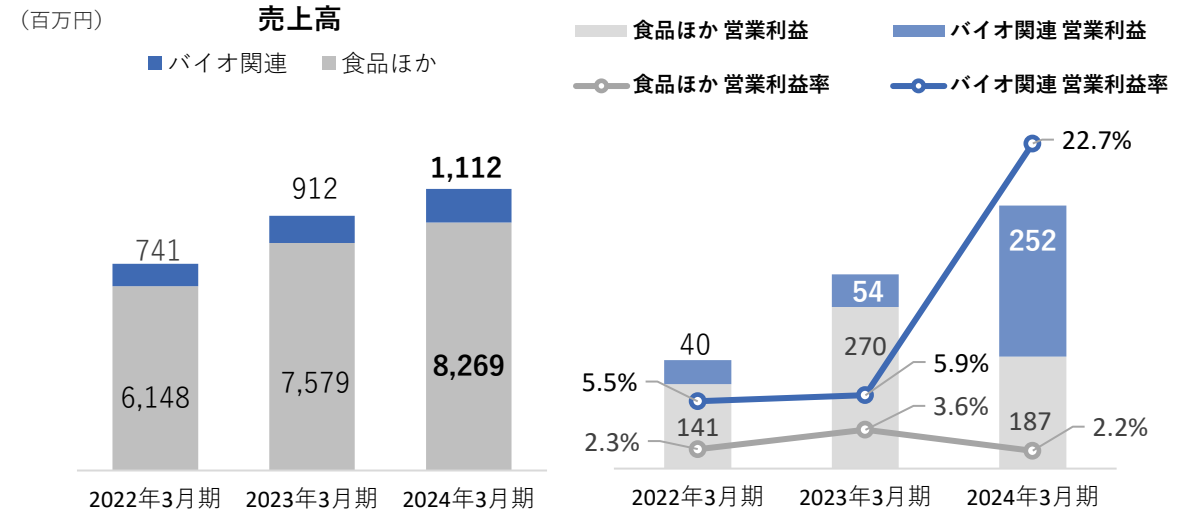
売上高

- 大阪市浪速区の新街区「なんばパークス サウス」のグランドオープンに伴い、賃料収入が増加

営業利益

- 売上の増加に伴い営業利益も上昇

食品・その他事業



売上高

- バイオ関連：iMatrix製品および医療用ゼラチンの販売が順調に推移
- 食品ほか：有機穀物、イタリア食材の輸入販売が価格改定もあり増収

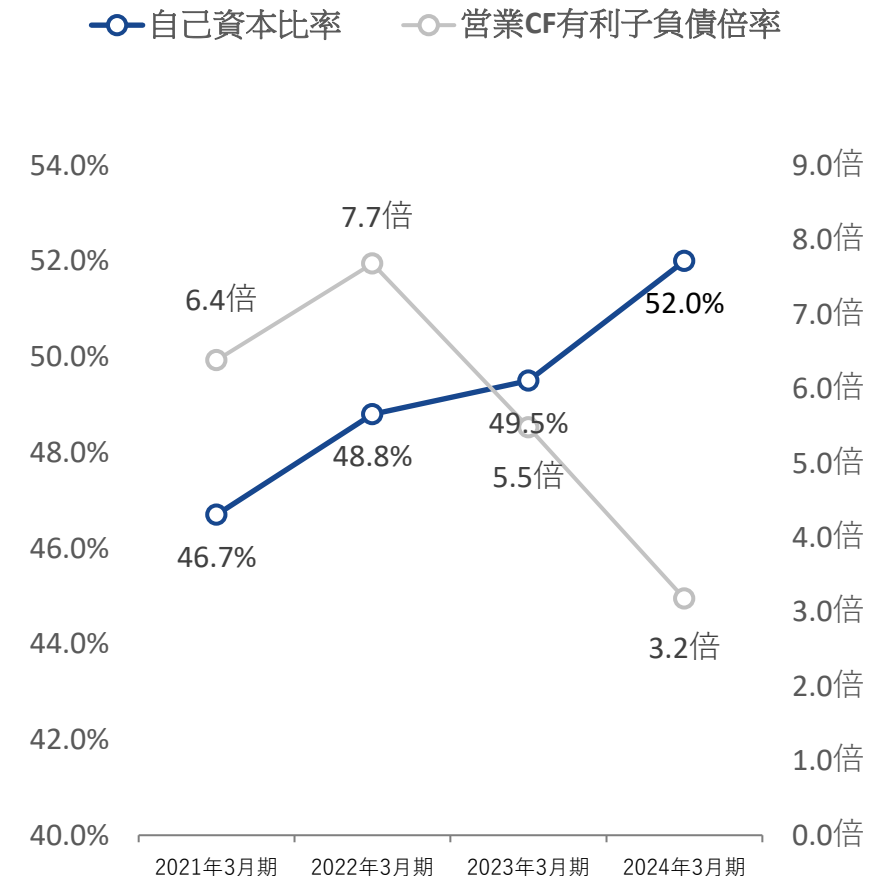
営業利益

- バイオ関連：価格改定もあり利益率が上昇
- 食品ほか：現地価格上昇及び円安の進行により、輸入コストが上昇し減益

連結貸借対照表

自己資本比率は50%を超過、有利子負債の削減と営業CFの増加により
営業CF有利子負債倍率は大幅に低下

単位：百万円	23年3月期	24年3月期	増減額
流動資産	26,766	29,602	+2,836
現預金残高	7,012	8,778	+1,766
固定資産他	42,797	42,791	△5
資産合計	69,564	72,394	+2,830
流動負債	17,434	17,656	+222
固定負債	17,052	16,433	△618
純資産	35,077	38,304	+3,226
負債・純資産合計	69,564	72,394	+2,830
自己資本比率※	49.5%	52.0%	+ 2.4P
営業CF有利子負債倍率	5.5倍	3.2倍	△2.3倍

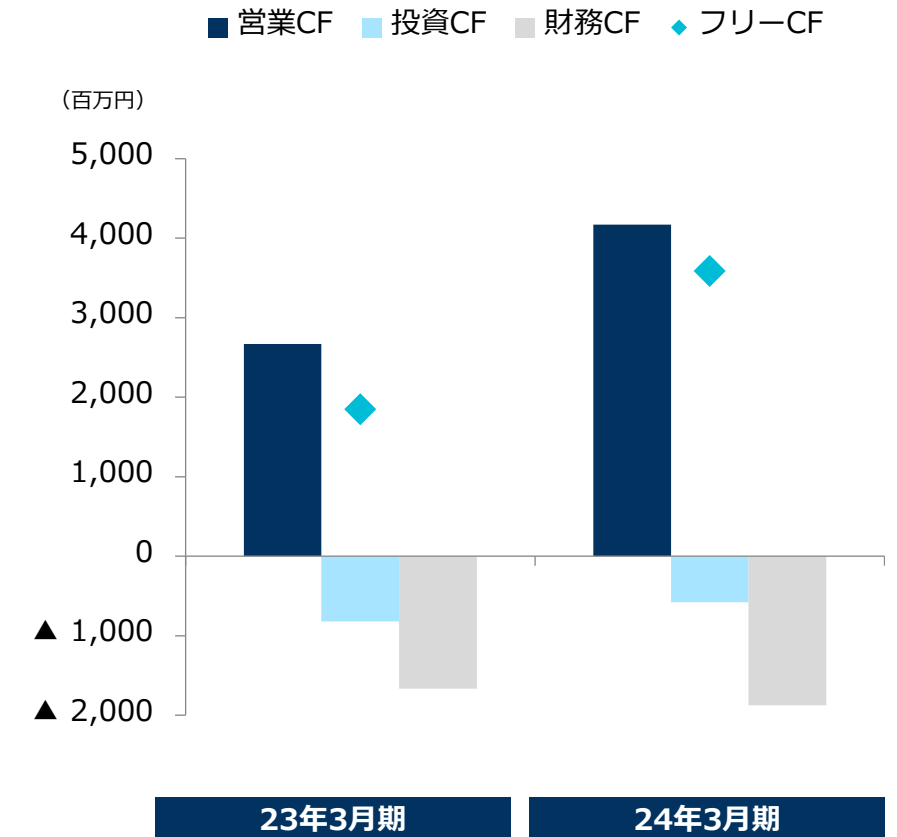


※ 自己資本比率 = 自己資本 / 総資産 × 100
(自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 被支配株主持分)

キャッシュ・フローの状況（連結）

期中の一時的な運転資金の増加も解消し、営業CF及びフリーCFは大幅に増加

単位：百万円	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	2,667	4,169	+1,502
投資活動による キャッシュ・フロー	△821	△580	+240
フリー・キャッシュ・フロー	1,846	3,588	+1,742
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,665	△1,876	△211
現金及び現金同等物の 増減額	217	1,766	+1,548
現金及び現金同等物の 期末残高	6,839	8,605	+1,766



2

2025年3月期業績予想

2025年3月期 連結業績予想

売上については前期並みの見通しだが、物流コストや人件費などの増加により減益を見込む

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前年同期比 (25.3期予想/24.3期実績)
売上高	49,046	49,000	△0.1%
営業利益	3,612	3,000	△17.0%
営業利益率	7.4%	6.1%	△1.2P
EBITDA [※]	5,404	—	—
経常利益	3,740	3,000	△19.8%
親会社に帰属する 当期純利益	2,548	2,000	△21.5%
一株当たり当期純利益 (円)	886.04	695.43	△21.5%
ROE	7.1%	—	—
ROIC	6.1%	—	—

※EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

3

中期経営計画の進捗

中期経営計画の進捗

各利益段階で最終年度の計画を超過。計画自体の修正はせず、継続的に経常利益25億円超を達成できる体制づくりを進める。

単位：百万円	2024.3期 計画	2024.3期 実績	24.3期計画/実績比	2025.3期 計画	2026.3期 計画
売上高	47,000	49,046	+2,046	50,000	52,500
営業利益	1,600	3,612	+2,012	1,800	2,500
営業利益率	3.4%	7.4%	+4.0P	3.6%	4.8%
EBITDA ^{※1}	3,170	5,404	+2,234	3,110	3,670
経常利益	1,500	3,740	+2,240	1,700	2,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,000	2,548	+1,548	1,200	1,700
ROE	2.8%	7.1%	+4.3P	3.3%	4.5%
ROIC	2.8%	6.1%	+3.3P	3.2%	4.5%
1株当たり当期純利益 (円)	347.70	886.04	+538.34	417.24	591.09
配当性向	20.1%	24.8%	+4.7P	30.0%	30.0%
自己資本比率	51.8%	52.0%	+0.2P	53.3%	55.1%

※1 EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費

4

APPENDIX

社長メッセージ



代表取締役社長 伊藤裕子

2004年9月 当社入社
 2014年10月 大倉フーズ株式会社取締役
 2015年7月 当社執行役員
 2017年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品取締役
 2019年6月 同社常務取締役
 2019年7月 当社経営企画室プロジェクトリーダー

自然の創造物を人々の暮らしへ

1907年の創業来、当社は「良いもの」をつくることにこだわってまいりました。品質第一を信念に、お客さまの要望にお応えする製品を提供すること、これが、創業以来変わらない当社の経営方針です。

当社は、事業の要となるコラーゲンにいち早く着目し、その研究を続けてまいりました。

コラーゲン業界の先駆企業としての自負をもちながら、今なお新たな分野に挑戦し続けています。

今後さらに50年、100年の歴史をつくるためにも、「つぎの良いものを創ること」に取り組んでまいります。

2021年6月 当社取締役、経営企画室長、化粧品・健康食品事業部・関係会社、知財担当
 2021年6月 株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長
 2023年4月 当社代表取締役社長（現）
 2023年6月 一般社団法人日本皮革研究所理事長（現）

会社概要

商号	株式会社ニッピ (Nippi, Incorporated)
本社所在地	〒120-8601 東京都足立区千住緑町1-1-1
ホームページ	https://www.nippi-inc.co.jp/
設立	1907年（明治40年）4月1日
資本金	4,404百万円
証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード：7932）
従業員数	467名（2024年3月31日現在）
代表者	代表取締役社長 伊藤 裕子
事業所	生産拠点： テクノセンター（東京都） 富士工場（静岡県） 富士宮工場（静岡県） 芝川工場（静岡県） 研究所： バイオマトリックス研究所（茨城県）

事業内容

コラーゲン・ケーシング事業
ゼラチン関連事業
化粧品関連事業
皮革関連事業
賃貸・不動産業
食品その他の事業

主な子会社

株式会社ニッピコラーゲン化粧品	https://www.nip-col.jp/
株式会社ニッピ・フジタ	https://nippi-fujita.com/
大鳳商事株式会社	
大倉フーズ株式会社	https://www.okurafs.co.jp/
NIPPI COLLAGEN NA INC.	
日皮（上海）貿易有限公司	
日皮胶原蛋白（唐山）有限公司	
ニッピ都市開発株式会社	
株式会社ボーグ	

関連会社

株式会社マトリクソーム	https://matrixome.co.jp/
-------------	---

関連団体

一般財団法人日本皮革研究所	http://www.jilr.or.jp/
---------------	---

本社ビル

テクノセンター

富士工場

富士宮工場

芝川工場

バイオマトリックス研究所



当社のDNAとありたい姿

当社のDNA

「生み、育み、支える」

ものづくりへのこだわり

高品質

ユニーク

先取り

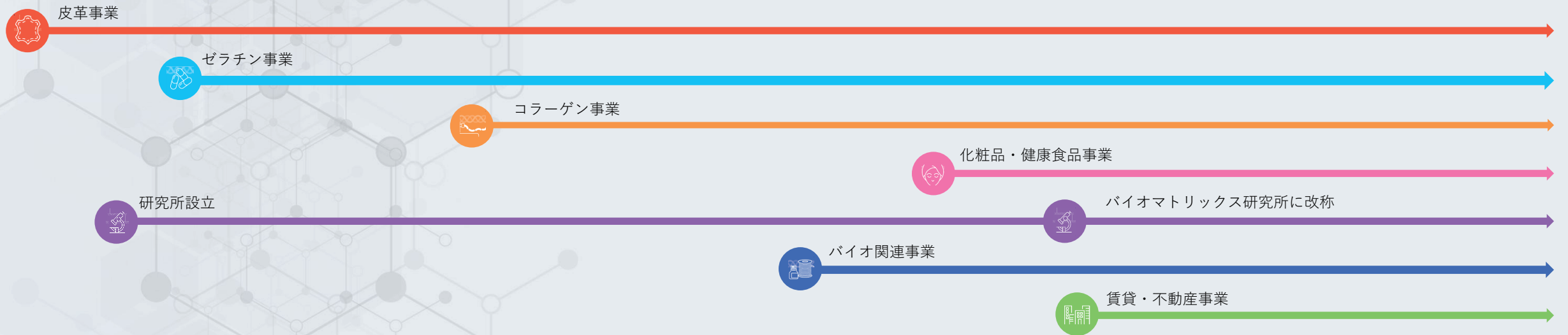
ありたい姿

タンパク質研究の
エキスパートとして
人々の生活の質の
向上に貢献する

食・健康・医療関連分野におけるニッチトップを目指し
ユニークな製品・サービスを提供

事業創出の歴史

副産物のアップサイクルにより新たな事業を展開

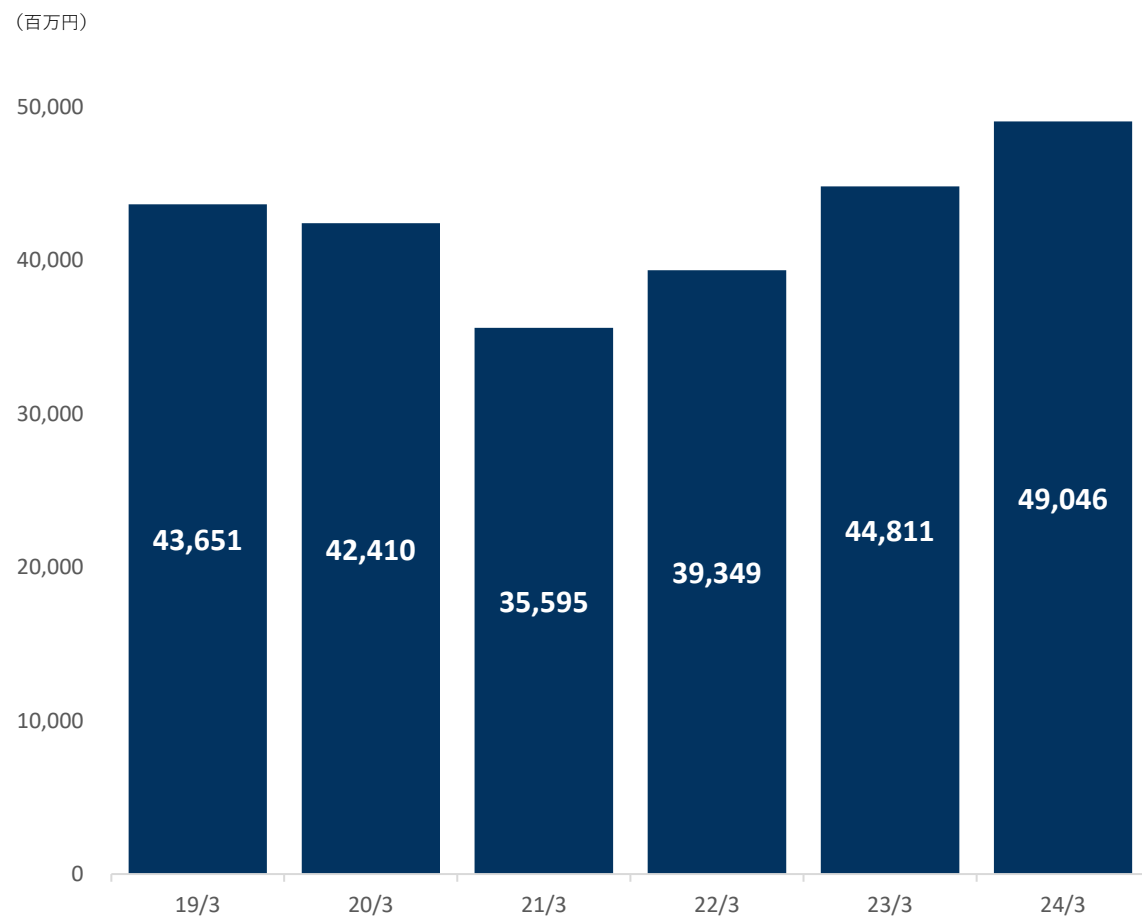


コラーゲン研究から生まれたコラーゲン・ゼラチン製品群

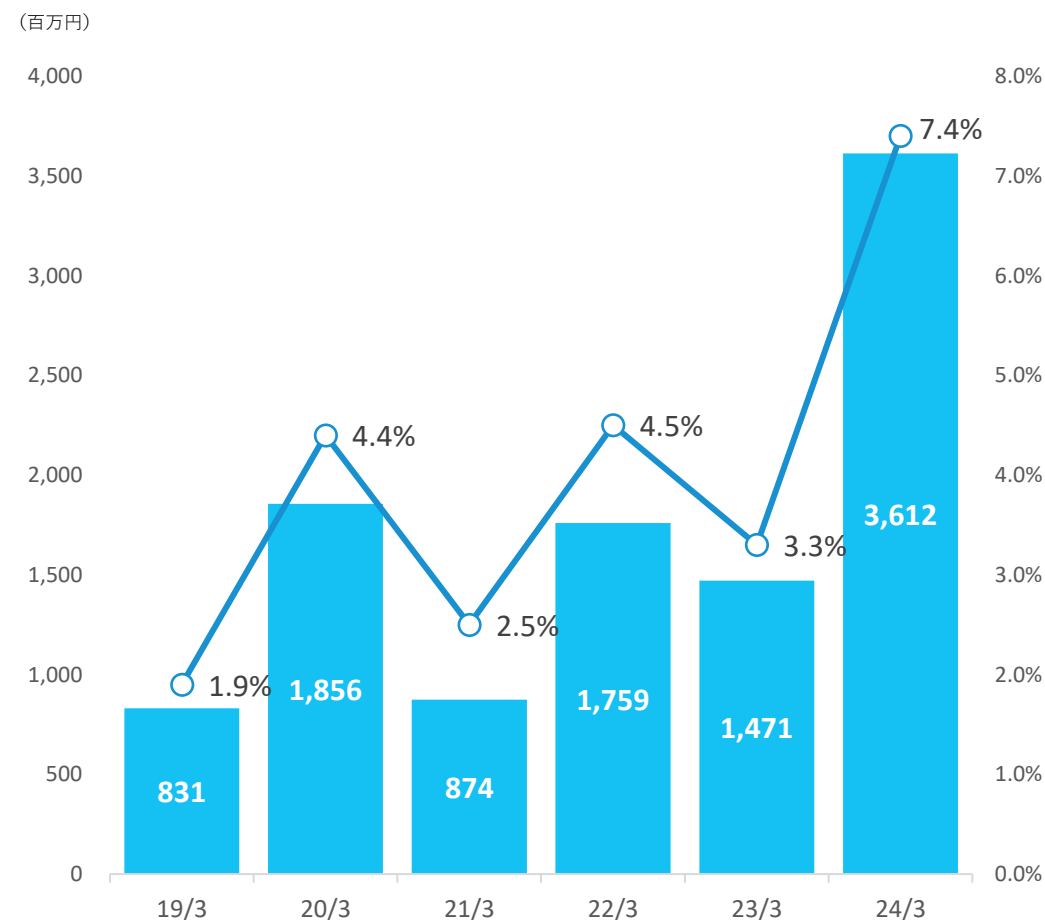
品質にこだわり、前例にこだわらず、
新たな製品開発に挑戦し続ける



売上高



営業利益 / 営業利益率



事業紹介



ゼラチン事業

生産拠点 富士工場（静岡・富士宮市）

コラーゲンを分解、精製して製造したゼラチン及びコラーゲンペプチドを取り扱い。ゼラチンは古くから私たちの暮らしに活用され、ゼリーやグミキャンディ、カプセル、コンビニエンスストアのレンジアップ商品等に使用されている。コラーゲンペプチドは、低分子で体内に吸収されやすく、様々な機能が明らかになっている素材。健康や美容への効果が期待でき、水に溶解させることが容易なため、健康食品の飲料や粉末商品、錠剤など様々な用途で使用されている。最新設備を導入したコラーゲンペプチド製造専用施設CQT棟では、長年培った製造技術と最新の研究を活かした「Collagenomics」等を製造し、市場やお客様のニーズに対応した製品の提供に取り組んでいる。



※ニッピペプタイド、Collagenomicsは、ニッピの登録商標です



コラーゲン・ケーシング事業

生産拠点 富士宮工場、芝川工場（静岡・富士宮市）

タンパク質のひとつであるコラーゲンを使用したソーセージの皮「ニッピ コラーゲン ケーシング」や可食性の紐「ニッピストリング」を取り扱い。ケーシングは100%ウシ由来のコラーゲンを使用。サイズはもちろん、食感に関わる皮の厚みなど、お客様のご要望に幅広く対応し提供している。植物性色素を用いたカラーケーシングや天然素材を使用した印刷ケーシングも取り扱う。ソーセージの皮にイラストをプリントする方法は当社独自の技術。静岡県富士宮市の生産拠点で、富士山の天然水を使用して製造し、世界30カ国以上に輸出。ストリングは、ケーシングと同じ原料を使用し、もち巾着や昆布巻き、ロールキャベツなどの紐として利用されている。



事業紹介



バイオケミカル事業部

生産拠点 ニッピテクノセンター（東京・足立区）

コラーゲン及びゼラチンの基礎研究で培った技術を応用したバイオテクノロジー分野から、高分子研究の成果を用いたケミカル分野まで、幅広い機能素材や高付加価値製品を取り扱う。

バイオ部門では、医療用途向けのコラーゲンやゼラチンをはじめ、ライフサイエンス研究試薬、細胞培養用基材、動物用体外診断用衣料品などの製品を製造販売。コラーゲンを活かしたペット用サプリメントも取り扱い。

ケミカル部門では、当社独自の技術を応用して開発した化学架橋塩化ビニルを主軸に、電線被覆用コンパウンド、マスキングフィルム、床材溶接棒等のケミカル製品を取り扱う。



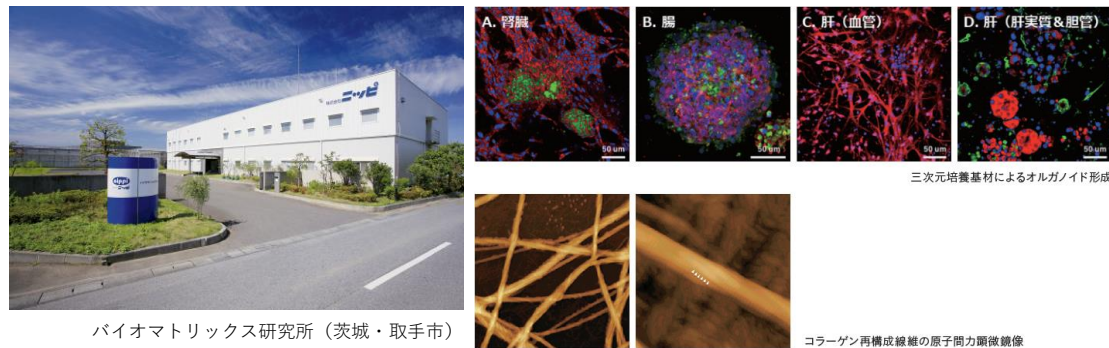
バイオマトリックス研究所

生産拠点 バイオマトリックス研究所（茨城・取手市）

ヒトの身体を構成する細胞のうち、赤血球などを除いた十数兆個の細胞は、細胞同士、あるいは細胞が合成分泌して蓄積する細胞外マトリックスという足場に接着しています。その主成分は、コラーゲンというタンパク質。

コラーゲンは、ヒトの全タンパク質の約30%を占めているといわれ、骨や皮膚、腱などの主成分であるだけでなく、あらゆる臓器に存在して、多様な細胞や組織が清浄機能を発揮するための環境を提供するとともに、多くの疾患や成長・老化といった生命現象に密接に関与している。

バイオマトリックス研究所では、生化学や細胞生物学、細胞化学を中心とした、ライフサイエンス研究用試薬、医薬品、健康食品、化粧品などの分野において、人々の暮らしと健康に貢献するような研究開発に取り組んでいる。



事業紹介



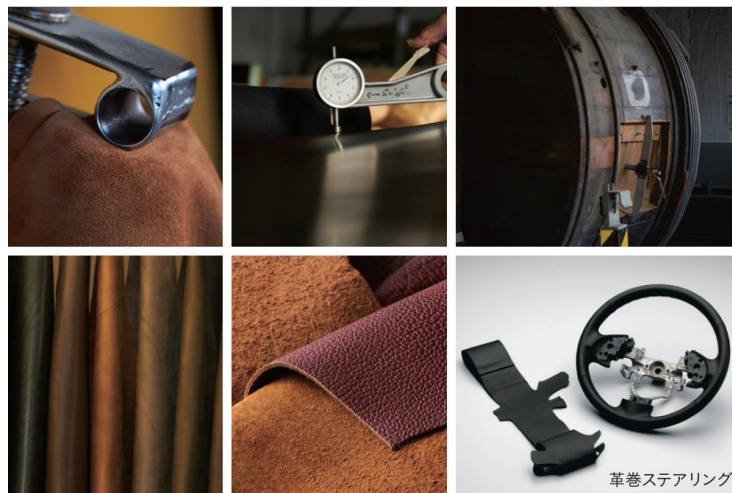
化粧品関連事業

当社は、コラーゲンメーカーとしての強みを活かし、高品質のコラーゲン製品を提供。
主力商品として「コレセンス スキンケアジェル」と「ニッピコラーゲン100」があり、ロングセラーに。子会社である株式会社ニッピコラーゲン化粧品において、通信販売によりお客様にお届け。



皮革関連事業

創業事業である皮革鞣製造業からは退いたものの、当社が100年にわたり蓄積した皮革製造販売のノウハウは子会社である株式会社ニッピ・フジタが継承。同社は皮革のプロフェッショナル企業として、世界中のタンナリーとユーザーをつないでいる。



賃貸・不動産事業

当社開発推進室では、土地再開発計画立案から実現まで、計画管理運営等不動産事業全般を推進。
東京本社所在地、京成線千住大橋駅前に広がる12万㎡超の複合タウン構想「ポンテグランデTOKYO」地区開発をはじめ、大阪府大阪市においても賃貸事業及び土地開発事業に取り組むなど、当該地区の資産価値の増大に貢献。



●昔と未来、●空と緑・花、●川とまち、●風景と建物、●人と人 の5つの要素を結びます。

本資料に記載されている情報は、現時点の経済、規制、市場等の状況を前提としています。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されており、将来の結果や業績を保証するものではなく、既知および未知のリスクや不確実性が含まれています。その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予測に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる場合があります。